

平成27年9月関東・東北豪雨災害への対応

結城地域農業改良普及センター 坂東地域農業改良普及センター

冠水被害に対する技術資料の作成、関係機関との残稿処理に関する打ち合せ、決壊河川周辺土壌の調査や生育調査など、災害対応及び復旧に向けた支援を行いました。

また、実施した生育調査の結果や、水稲で発生したガス害や漏生稲の対策資料を速やかにかつ積極的に周知することで、不安払拭に努めました。

その結果、生育への影響を軽微に抑えることに成功し、被害の甚大であった常総市においても水稲の収量は 392kg/10a から 535kg/10a へ、品質は 85%から 96%へと回復し、平年並の水準を確保することができました。



大豆の冠水被害状況



決壊河川土壌調査 (H27.10)



水稲ガス害の発生状況 (H28.5)



ホームページにアクセス!

各部門・事務所のホームページに、随時情報を掲載しています。是非ご覧ください。



茨城県マスコットハッスル黄門

茨城 県西農林 検索

土地改良部門

被災した農地・農業用施設の復旧について支援し、平成28年度の水稲や大豆の作付けに間に合わせる事ができました。



被災後の農地状況



常総市内被災箇所の災害査定状況



平成28年産大豆の収穫ができました

境土地改良事務所

河川や排水路の決壊等に伴い、土砂堆積による農地への被害のほか、浸水による用排水機場への被害が数多く発生しました。

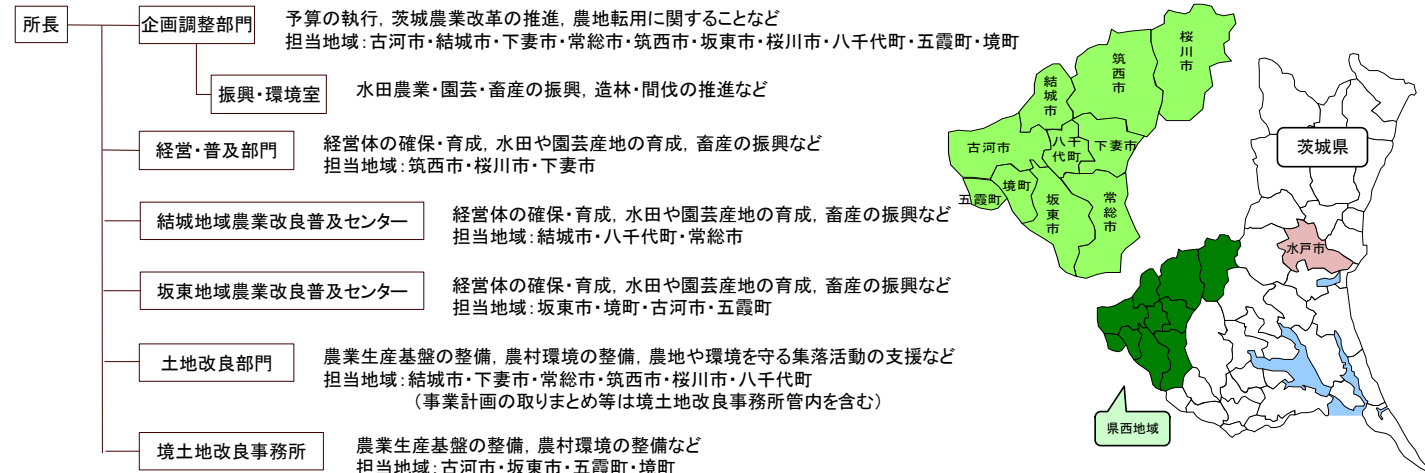
災害復旧工事では、浸水した機場の機器類の部品交換等が行われました。用水機場については田植え時期までに、排水機場についても台風シーズン前の7月までに全ての復旧工事が完了し、本来の機能を確保することができました。



内沼湛水防除機場(坂東市鶴戸)の災害発生時の状況(左)と復旧工事の様子(右)



県西農林事務所案内



平成28年度 茨城県県西農林事務所の取り組み

企画調整部門

筑西市二木成 615 筑西合同庁舎 5階 TEL:0296-24-9307

茨城農業改革に取り組んでいます

「茨城農業改革大綱(2016-2020)」に基づき、県西地域農林業振興基本計画を策定しました。

農業改革を実効性のあるものとするため、「産地改革チャレンジ事業」を始めとした、産地や農業者の創意工夫に基づく取組を支援し、本県農業をリードする県西地域の更なる発展を目指しています。



自家栽培の玄米を原料としたジェラートの開発を支援

振興・環境室

筑西市二木成 615 筑西合同庁舎 5階 TEL:0296-24-9166

農産物ブランド化の推進

古河市のにがうり、常総市のズッキーニのブランド化を推進するため、「いばらき食のアドバイザー」藤原浩氏をはじめ、生産者や関係機関を交え、活発な意見交換を行いました。

消費者に調理方法を浸透させ、消費拡大を図るため、一流シェフ協力のもと新レシピを考案しました。今後とも、地元と連携して販売促進活動を進めていきます。

- ・販売促進活動
 - にがうり 7回
 - ズッキーニ 5回
- ・新レシピの作成
 - にがうり 3レシピ
 - ズッキーニ 10レシピ



地元生産者とにがうりの販売促進活動を実施 (H28.7~8)



新レシピの一例 (ズッキーニと小エビのフリット)

農地の集積・集約化を支援

「農地中間管理事業」により、平成28年度は管内で約520haの農地を担い手に集積しました。

地域農業を支える担い手の経営の安定化に資する農地の集積・集約化を、関係機関一体となって支援しています。



地域の話合いによる集積・集約化を支援

優良なキュウリ産地の育成

今年度、強い農業づくり交付金を活用し、JA北つくば大和キュウリ選果場が整備されました。

形状選別機とカラーカメラ(鮮度測定装置付)の選果設備が導入され、出荷作業の省力化と品質の高位平準化が可能となり、農家所得の安定化が期待されます。



JA北つくば大和キュウリ選果場

森林・林業への理解促進活動

森林湖沼環境税を活用した事業の1つである「茨城県森林・林業体験学習事業」のなかで、小学校や生涯学習団体を対象に県産材を使ったマイ箸づくり体験学習を行いました。体験学習の一環で森林が持つ様々な働きについて講話を行い、生徒児童等延べ2,089人(10市町35団体)の理解を深めることができました。

また、管内で14団体約600名が登録されている森林ボランティアは、各々活動フィールドを持ち、下刈りや間伐等森林の維持管理を行っています。当事務所は、森林ボランティア等と協力し、地元小中学校の生徒児童・親子を招いた林業作業体験や自然観察などを実施するなど、積極的に森林・林業への理解促進を進めています。



古河市立諸川小学校5年生がマイ箸づくり (H28.7)



筑西市 NPO 里山を守る会親子で落葉掻き体験 (H29.1)

立夏はこだますいかの日!

全国有数のこだますいか産地である筑西市、桜川市において、産地の関係団体等で構成された、こだますいか産地活性化協議会の活動を支援しています。

今年度、当産地のこだますいかが収穫盛期を迎える立夏(平成 29 年は 5 月 5 日)を「こだますいかなの日」として制定したことをきっかけに、産地一体で PR 活動を展開していきます。



イネ縞葉枯病防除対策の推進

イネ縞葉枯病は水稻の重要病害であり、県西地域で発生が拡大しています。微小害虫であるヒメトビウンカが媒介するため、地域ぐるみの防除対策が必要です。

そのため、育苗箱施薬や本田での防除の効果を実証し、各種講習会等で周知しています。また、関係機関の広報誌や、市町村の HP などを通じて広く防除対策を推進しています。



イネ縞葉枯病対策研修会

鴻野山地区の畑地を整備

畑地帯総合整備事業 鴻野山地区(常総市)は、平成 28 年度から本格的に区画整理工事が始まり、17ha の畑の整備を行いました。整備後は、霞ヶ浦用水を利用した畑かん営農が展開されます。



区画整理工事施工状況



霞ヶ浦用水を利用した灌漑(イメージ)

農地・水路等の保全活動を支援

管内の 9 市町の 184 組織において、多面的機能支払交付金を活用した地域の共同活動により、7,549ha の農地及び農業用施設の保全管理が行われています。



草刈り(農地維持活動)



泥濘い(農地維持活動)



植栽活動(共同活動)

結城地域農業改良普及センター

結城郡八千代町若 1517-5 TEL:0296-48-0184

野菜のブランド力強化

結城市では「結城ブランド」を推進しています。全国 2 位の作付けを誇るハクサイでは、「菜黄味」ブランドの強化による有利販売を、青果物銘柄産地である「ゆうきくんレタス」では、良品生産に向け診断施肥技術による適正施肥を推進しています。

また、ICT(情報通信技術)の導入による、施設トマトの生産管理技術の確立を進めています。

安定生産技術の確立を図るとともに、JA と連携して生産部会の GAP の取り組みを支援しています。



秋冬ハクサイの収穫

ジュース用トマト、日本一の産地に

JA常総ひかり加工トマト部会(生産者 79 名、面積 40ha)に対し、関係機関と連携して、作付面積の適正化を主導し各生産者が栽培管理を徹底できるよう働きかけてきました。

その結果、平成 28 年度の部会平均反収は 9.3t(前年比 125%)、総出荷量 3,700 t(前年比 113%)と大きく向上し、全国の約 12%のジュース用トマトを生産する日本一の産地になりました。



栽培管理の指導

境土地改良事務所

猿島郡境町 2174-13 TEL:0280-87-0822

畑地の区画整理を実施中

県西地域の農業を支える畑地の基盤整備が大規模に進んでおり、坂東中央地区(坂東市)では約 47ha、尾崎北部地区(古河市)では約 12ha の区画整理工事を行いました。



尾崎北部地区(左:施工前,右:施工後)

七郷中川地区の圃場整備が完了

平成 14 年度より、約 200ha の区画整理及び幹線道路・排水路の整備を行ってきた、経営体育成基盤整備事業七郷中川地区(坂東市)が、平成 29 年 3 月に事業の完了を迎えました。



坂東地域農業改良普及センター

坂東市岩井 5205-3 TEL:0297-34-2134

パン用小麦ゆめかおりのブランド化

パン用小麦「ゆめかおり」のブランド化に向けて、「茨城パン小麦栽培研究会」と関係機関が一体となり、競争力の高い高品質麦生産と需要拡大に取り組まれました。

その結果、栽培面積が 47ha から 60ha(平成 29 年産)に拡大しました。また、新たに中華麺用途への販売が始まっています。さらなる消費拡大に向け、生産と販売活動を引き続き支援します。



茨城パン小麦栽培研究会

優良なトマト産地の育成

JA茨城むつみ猿島地区野菜生産部会トマト部会は、平成 27 年度に強い農業づくり交付金を活用し、非破壊糖度センサーが搭載された新しい選果機を導入しました。

本選果機導入後、市場の評価は以前に増して高まり、単価が過去 3 年の平均と比較し 8% アップしました。

さらに、糖度が 7 度以上のトマトを「猿島SEVEN」として試験的に販売したところ、大変好評でした。他産地との差別化を目指す地域ブランド力強化支援事業を活用した取組等についても、関係機関一体となって支援します。



トピックス

農産物の輸出促進

県西地域から輸出している主な農産物をご紹介します。

米:
下妻市、坂東市等からアメリカに約 60 トン

梨:
下妻市からタイ・マレーシア・ベトナム等に約 5 トン

メロン:
下妻市からタイ・マレーシアに約 7 トン



パッケージデザイン(ゆめひたち)

ICTの活用促進

ICT(情報通信技術)を活用した普通作経営体の作付け規模拡大に向けた取組を推進しています。



水田センサーを実地圃に設置

梨「恵水」初出荷!

県オリジナル梨「恵水」初出荷となった平成 28 年度は、管内から県全体の約 6 割を占める量の「恵水」が出荷されました。引き続き生産者、関係機関と協力し、「恵水」のブランド化を図っていきます。



初出荷のため、現地での出荷目揃え会を実施